

夏休みに長野の姉の家遊びに行った時、4歳の姪っ子が「カエルがイモムシ食べてるよー」と教えてくれた。「なんか動きも遅いしちょっとヘン」とも言っている。どれどれ、確かに全然逃げなくてトロいアマガエルだ……ってっおおお！これはー！カエルを食うという奇妙な生態で有名な一度実物を見てみたかったオオキベリアオゴミムシの幼虫ではないかあああ！（早口）

姪っ子が見つけたのは「カエルが虫を食べてる」ではなく、「虫がカエルを食べてる」シーンだった。オオキベリアオゴミムシは、幼虫も成虫もカエルを専門に捕食する。そんなヤバいやつがこの世にいるんかい！と図鑑を見た時に衝撃を受けたが、今回実物に出会うことができるとても嬉しい。アマガエルには可哀想だが、これも食物連鎖だ。

オオキベリアオゴミムシの幼虫は大あごと爪でアマガエルにしがみつ、いくらアマガエルが暴れても離れなかった。一度噛みつかれたら終わりの恐ろしい奴なのだ。

持ち帰って数日後、幼虫は土に潜って出てこなくなった。10日ほど経って飼育ケースを見て驚いた！きらりと光る何かがある。成虫になったのだ！幼虫のおぞましさと打って変わって、成虫はなんて美しいだろう！頭や胸が輝きを放っている！背中上品な色合い！気品すら感じさせる。やばい、ゴミムシにもハマりそうだ…。



アマガエルにぶら下がる不気味な虫 長野県安曇野市 8/9  
アマガエルがイモムシでも食べているのかな…と思ってよく見ると、なんと逆に何かのアマガエルに食らいついていた。アマガエルはじたばたしていたが全然離れない。



カエル専門のハンター・オオキベリアオゴミムシの3齢幼虫  
巨大なキバをもち、カエルに噛みついたら離さない。ぶら下がりながらカエルのからだを溶かし、生きたまま食べてしまう。カエルを1匹食べるごとに脱皮し、3匹平らげると蛹になるそうだ。



キバ（大あご）の他にも、脚の先がカエルの皮膚に引っかかっているのが分かる（赤矢印）。脚の先が二股の鋭い構造になっていて、引っかかりやすくなっていた（黒矢印）。一度獲物をつかんだら意地でも離れない工夫があるようだ。



オオキベリアオゴミムシの成虫（飼育下にて羽化）8/22  
カエルを食べた後に地中に潜り、10日ほど経った頃、羽化して成虫が現れた。頭胸部は光の当たり具合によって緑銅色や赤銅色に輝いていて非常に美しい。背中緑の緑がかった配色も美しい。



カエルを食らうオオキベリアオゴミムシの成虫（飼育）  
左の写真と同じ個体。成虫もカエルを食べる。冷凍庫に眠っていたウシガエルを与えてみたら、食べ始めた。成虫にも立派な大あごがあり、獲物に食らいつく。